

病害虫発生予察情報（5月予報）

令和8年4月28日
静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

| 作物名 | 病害虫名 | 予報 (5月の県平均平年値) | 予報の根拠 |
|-------------|-------------------|-----------------------------------|--|
| 稲 | 縞葉枯病 (ヒメトビウンカ) | 縞葉枯病発生量：やや少 ヒメトビウンカ発生量：やや少 | 昨年8月発生量 縞葉枯病：少 (－) ヒメトビウンカ：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 小麦 | 赤かび病 | 発生量：多 (発病穂率 1.0%) | 4月中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| ばれいしょ | 疫病 | 発生量：やや多 (発病株率 0.1%) | 4月上旬発生量：並(発生なし) (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | ジャガイモガ | 発生量：やや多 (寄生株率 0.1%) | 4月上旬発生量：並(発生なし) (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | アブラムシ類 | 発生量：並 (寄生株率 14.2%) | 4月上旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 温州みかん | かいよう病 | 発生量：やや多 ただし、中部：多 (発病度 0.01) | 4月中旬発生量：並 (±) ただし、中部：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 中晩柑類 | かいよう病 | 発生量：やや多 (発病度 0.04) | 4月中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| キウイ フルーツ | かいよう病 | 発生量：やや多 (発病葉率：10.4%) | 4月中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (－) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 果樹全般 | 果樹カメムシ類 | 発生量：やや少 | 予察灯誘殺数：やや多 (＋) フェロモントラップ誘殺数：少 (－) 越冬量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |

| 作物名 | 病害虫名 | 予報 (5月の県平均平年値) | 予報の根拠 |
|-----|------------------|--|--|
| 茶 | チャハマキ | 発生量：並 (寄生虫数0.6頭/1.25㎡) 発生時期：並 | 4月中下旬発生量：少(発生なし) (－) トラップ誘殺数：並 (±) ただし、西部地域で多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | チャノコカクモン ハマキ | 発生量：並 (寄生虫数0.2頭/1.25㎡) 発生時期：並 | 4月中下旬発生量：少(発生なし) (－) トラップ誘殺数：並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | チャノキイロ アザミウマ | 発生量：やや多 (叩き落とし虫数3.7頭/4か所) | 4月中下旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | チャノミドリ ヒメヨコバイ | 発生量：多 (叩き落とし虫数2.0頭/4か所) | 4月中下旬発生量：やや多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | カンザワハダニ | 発生量：やや多 ただし、一部地域で多 (摘採面寄生葉率2.9%) | 4月中下旬発生量：やや少 (－) ただし、東部地域で多 (＋) 病害虫防除員からの情報：西部地域で多 (＋) 天敵(カブリダニ類)発生量：多 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | クワシロ カイガラムシ | 発生量：多 発生時期：やや早い (5月未調査) | 4月中下旬発生量：やや多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |

表の見方について

- ・ 予報の発生量は平年(静岡県の過去10年間)との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況(調査時期と発生量)、気象庁の1ヶ月予報(気温と降水量)を記入しています。その状況が多発要因の場合は(+)、少発要因の場合は(-)を示し、+-を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。

静岡県病害虫防除所 HP



静岡県病害虫防除所 HP

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyos/nigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

2 予報の根拠と防除対策

【稲】

●縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

予報の根拠

- ・ 昨年8月の巡回調査では、縞葉枯病の発病株率は0.3%（平年0.5%）、媒介虫であるヒメトビウンカの最多寄生虫数の平均は0.1頭/株（平年1.0頭/株）と、いずれも平年より少なかった。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平年並だが、気温は平年より高いため、ヒメトビウンカの増殖をやや助長する。このため、本病の発生もやや助長される。

防除対策

- ・ 発生地域において普通期以降に作付を行う場合、縞葉枯病抵抗性品種（あいちのかおり SBL・にじのきらめき）を利用する。
- ・ 発生地域ではヒメトビウンカ対策として育苗箱施用剤を施用する。

<その他の病害虫>

●苗立枯病、いもち病(苗いもち)、ばか苗病、もみ枯細菌病、イネシンガレセンチュウ

- ・ 自家採種の種もみは塩水選を必ず行う。
- ・ 厚播きは発病を助長するため、適正な種子量を守る。
- ・ 出芽期は30℃以上、緑化期以降は25℃以上の高温とならないよう、できるだけ温度管理に注意する。
- ・ 他県では育苗箱施用剤におけるQoI剤耐性いもち病菌が発生し問題となっており、本県でも発生が懸念される。耐性菌の発生リスクが高い薬剤を使用する場合は、連用を避けるなど適切に使用する。詳細は日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会ホームページの「殺菌剤使用ガイドライン」(<http://www.taiseikin.jp/guidelines/>)を参照。

●スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

- ・ 県内全域で分布が拡大している。
- ・ 例年5月以降に活動を開始し、移植後の苗を食害するため、普通期栽培水田では、移植後の薬剤処理を実施する。また、移植後2～3週間は食害を抑制するため、浅水管理（4cm以下）に努める。
- ・ 周辺水路内に泥が残っていると、その中でも越冬している可能性があるため、水路から泥を上げて貝を破碎する。
- ・ スクミリンゴガイには寄生虫（広東住血線虫）が寄生している可能性があるため、貝に触る場合は必ずゴム手袋をはめること。

【小麦】

<生育の概況>

生育は平年より早い。

●赤かび病

予報の根拠

- ・ 4月中旬の巡回調査では発病穂率1.3%（平年1.0%）と平年より多かった。この時期に発病を確認した年は、5月に発病が拡大する傾向にある。

- ・ 1 か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、発生を助長する（赤かび病は出穂期以降の日平均気温が 18～20℃、多湿条件下で発生が助長される）。

防除対策

- ・ 開花期～乳熟期にかけて感染する。防除適期は開花期頃であるが、多発が見込まれるため、追加防除を実施する。
- ・ 降雨によって多発することがあるため注意する。

<その他の病害虫>

●うどんこ病・赤さび病

- ・ 4 月上旬の巡回調査では、うどんこ病の発生は見られなかった（平年発病株率 0.8%）が、一部発生しているほ場もあることから、小麦の生育状況をよく観察し、発生に注意する。赤さび病も発生は確認されなかった（平年発病株率 0.1%）。
- ・ 発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。
- ・ 静岡県奨励品種である「きぬあかり」はうどんこ病に弱く、また「イワイノダイチ」、「農林 61 号」より赤さび病も発生しやすい。そのため、開花期に赤かび病との同時防除を行う。

●ハモグリバエ類

- ・ 4 月上旬の巡回調査では寄生は確認されなかった。
- ・ ほ場内の発生に注意し、多発した場合は薬剤により防除する。

【ばれいしょ】

<生育の概況>

病害虫防除員からの報告によると、生育は平年よりやや早い～早い。

●疫病

予報の根拠

- ・ 4 月上旬の巡回調査では発生は認められなかった（平年発病株率 0.02%）。
- ・ 1 か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 感染適温は 18～20℃であり、開花期以降に気温が 15℃以上、かつ降雨により湿度が高い状態が継続すると発病しやすくなる。
- ・ 発病に好適な気温下で降雨が続くと本病は急速にまん延する。多発生すると防除は困難になるため、開花期前から予防散布を行い、発生初期のうちに防除する。

●ジャガイモガ

予報の根拠

- ・ 4 月上旬の巡回調査では、寄生は確認されなかった（平年発生なし）。
- ・ 1 か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 葉への実害は少ないが、塊茎に寄生すると被害が大きくなる。葉への寄生を認めた場合、発生初期に防除する。

- ・塊茎が地上に露出しないよう注意し、収穫後は速やかに貯蔵庫へ搬入する。

●アブラムシ類

予報の根拠

- ・4月上旬の巡回調査では、寄生株率は1.2%（平成10.7%）と平成より少なかった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平成並であり、気温は平成より高いため、本種の発生を助長する。

防除対策

- ・気温の上昇とともに発生量の増加が予想されるので、低密度のうちに防除する。
- ・ほ場内や周辺において、アブラムシ類の発生源となる雑草を除去する。

【温州みかん】

<生育の概況>

県果樹研究センター（静岡市清水区）における発芽期は、「宮川早生」で4月1日（平成4月2日）、「青島温州」で3月28日（平成3月30日）と、平成並だった。また、同様に開花始期は、「宮川早生」で5月4日（平成より3日早い）、「青島温州」で4月30日（平成より2日早い）と予想される。

●かいよう病

予報の根拠

- ・4月中旬の巡回調査では、発病度は0.2（平成0.2）と平成並だった。
- ・地域別の発病度は、東部で0.2（平成0.4）、中部で0.2（平成0.1）、西部で0.02（平成0.1）と、中部では平成より発生が多かった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平成並であり、気温は平成より高いため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・昨年または現時点で本病の発生が確認されているほ場では、【中晩柑類】かいよう病の項を参照し、防除する。
- ・温州みかんは中晩柑類に比べて本病に感染しにくいとされているが、2024年から多発傾向が続いている。
- ・5～7月の銅剤散布は中晩柑類に比べて薬害が出やすいため、注意する。

<その他の病害虫>

●そうか病

- ・3月上旬の巡回調査では、平均発病度は0.03（平成0.04）であり平成並だった。4月中旬の巡回調査では、平均発病度は0.04（平成値なし）だった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平成並であり、気温は平成より高いため、本病の発生をやや助長する。
- ・感染適温は20～26℃で、5～6月に雨が多いと果実で多発する。
- ・発芽期以降、越冬病斑から新葉へ降雨のたびに伝染する。新葉の病斑から幼果に二次伝染するため、展葉期、5月下旬（落弁直後）、6月下旬（幼果期）に薬剤防除を行う。近年、発生が増加傾向にあるため防除に努める。
- ・苗、若木での発生が多い病害であるため、新植や改植をしたほ場では発生に注意する。

●ミカンハダニ

- ・4月中旬の巡回調査では、平均寄生葉率は10.2%（平成7.2%）と平成より多かった。地域別では、東部で1.2%（平成2.5%）、中部で19.0%（平成11.7%）、西部で10.5%（平成7.5%）と中部及び西部での発生が平成より多かった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平成並であり、気温は平成より高いため、本種の発生をやや助長する。
- ・着果前は果実への実害は生じない。ただし、葉に多発すると落葉を助長することもあるため注意する。
- ・マシン油乳剤を散布する場合、散布直後の降雨で防除効果が低下することから、晴天が数日続くと見込まれる際に防除を実施する。

【中晩柑類】

<生育の概況>

県伊豆農業研究センター（東伊豆町）における発芽期は、平成よりやや遅い～遅い。また、同様に開花始期は、平成並～2日早いと予想される。

●かいよう病

予報の根拠

- ・4月中旬の巡回調査では、発病度は0.8（平成0.8）と平成並だった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平成並であり、気温は平成より高いため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・感染適温は20～30℃であり、風雨により伝染する。5～6月に雨が多いと多発する。
- ・発芽期以降、越冬病斑から新葉へ降雨のたびに伝染する。新葉の病斑から幼果に二次伝染するため、5月上旬及び下旬、6月中下旬（梅雨期）に薬剤防除を行う。
- ・銅剤を散布する際は薬害軽減のため炭酸カルシウム剤を加用する。
- ・風ずれなどの傷口から病原菌が容易に侵入するため、防風垣、防風網の整備を行い防風対策に努める。

【かき】

<生育の概況>

県果樹研究センター（静岡市清水区）における発芽期は、前川次郎で4月2日、四ツ溝で4月3日だった。

<その他の病害虫>

●チャノキイロアザミウマ

- ・アメダスデータを用いたシミュレーションによると、第1世代成虫の発生時期は5月1日～15日（平成より4～7日程度早い。産地により時期が異なる。）と予想される。なお、今後の気温が平成より高く推移した場合、成虫発生ピークは早まるため注意する。
- ・産地ごとの詳細な防除時期は、病害虫防除所ホームページ「[防除時期等予測](#)」を参照する。

【キウイフルーツ】

●かいよう病

予報の根拠

- ・ 4月中旬の巡回調査では、発病葉率は7.2%（平年2.2%）と平年より多かった。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、発生をあまり助長しない。

防除対策

- ・ 感染適温は10～20℃（特に18℃付近）であり、風雨により伝染する。
- ・ 樹体内に病原細菌が侵入すると根本的な治療方法はないため、防除は予防が中心となる。周囲への感染を防ぐため、発病樹の伐採あるいは発病部位の切除を行い、園外の土中に埋めるなど適切に処分する。
- ・ 発病の最盛期は4～6月のため、果実肥大期まで予防的に防除を実施する。ただし、花芽伸長開始後は使用する薬剤によっては薬害が出るため、薬害が出にくいコサイド3000を使用し、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤を加用する。
- ・ 受粉には、かいよう病に感染していない樹から採取した花粉を用いる。
- ・ 管理作業時に付着した感染樹の樹液により感染が拡大するため、せん定器具や手指はこまめに消毒する。
- ・ 風ずれなどの傷口から感染するため、防風垣、防風網の整備を行い防風対策に努める。
- ・ 発生状況及び防除対策については、[「令和8年度技術情報第1号（キウイフルーツ かいよう病）」](#)も参照する。

【果樹全般】

●果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

予報の根拠

- ・ 本年2月の越冬量調査（県内20地点）において、チャバネアオカメムシ越冬量／落葉1㎡は、県平均0.2頭（平年1.2頭）と平年より少なかった。
- ・ 地域別でも、東部0.5頭（平年1.3頭）、中部0頭（平年1.3頭）、西部0.1頭（平年1.1頭）と、いずれの地域も平年より少なかった。
- ・ 県内2か所の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺は、4月上旬から確認され始めており、磐田市富丘ではツヤアオカメムシの誘殺が平年よりやや多くなっている。
- ・ 県内2か所のフェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺は、4月上旬から確認され始めているが誘殺数は少ない。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、本虫の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 本虫の越冬量や誘殺数が少なくても、一部園地ではカメムシ類が飛来することもあるため、地域の予察灯やフェロモントラップにおける発生状況に注意する。
- ・ 静岡県病害虫防除所ホームページ[「害虫誘殺グラフ」](#)では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ球果の着果量や球果における寄生数、球果での吸汁痕数、果樹園への秋季以降の飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。

【茶】

＜生育の概況＞

新芽の生育は平年並～やや早く、4月中下旬の巡回調査時には調査茶園はほぼ摘採前であった。

●チャハマキ・チャノコカクモンハマキ

予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、チャハマキ及びチャノコカクモンハマキ越冬幼虫は確認されなかった（平年幼虫数0.1頭/1.25㎡及び0.1頭/1.25㎡）。
- ・4月第1～4半旬の各地域の予察灯及びフェロモントラップへの越冬成虫の誘殺数は、チャハマキは一部地域（菊川市古谷及び掛川市吉岡）では平年より多かったものの、その他の地点では平年並であった。チャノコカクモンハマキはいずれの地点も平年並であった。成虫の発生時期は両種ともに平年並である。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、両種幼虫の発生を助長する。また、幼虫の発生は平年並～やや早くなると考えられる。

防除対策

- ・一番茶期に成虫の発生が多く見られた茶園では、摘採後に幼虫の発生状況を確認して防除を実施する。
- ・防除適期は、地域の予察灯やフェロモントラップの成虫誘殺状況を参考にして防除時期を決定する。病虫害防除所のホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」に、県内各地の成虫誘殺状況を掲載しているので参考にする。

●チャノキイロアザミウマ

予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は0.4頭/4か所（平年0.5頭/4か所）と平年並であった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・二番茶生育期から発生が増加するので、萌芽期における本虫の発生に注意し、萌芽期から開葉期にかけて防除を実施する。

●チャノミドリヒメヨコバイ

予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は0.4頭/4か所（平年0.3頭/4か所）と平年よりやや多かった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・例年、二番茶生育期から発生が増加するので、萌芽期における本虫の発生に注意し、開葉期頃に防除を実施する。

●カンザワハダニ

予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、摘採面での寄生葉率は1.7%（平年2.7%）と平年より少なく、裾部での寄生葉率は2.1%（平年2.5%）と平年よりやや少なかった。ただし、富士山麓地域における摘採面の寄生葉率は7.5%（平年2.7%）と多かった。

- ・また、茶業研究センター（菊川市菊川市倉沢）内での発生も、平年より多かった。
- ・加えて、病害虫防除員からの情報においても、11名のうち2名（いずれも西部地域）が多くの回答であった。
- ・一方、4月中下旬の巡回調査では、天敵のカブリダニ類の平均叩き落とし虫数も、1.0頭／4か所（平年0.1頭／4か所）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、発生を助長する。

防除対策

- ・一番茶摘採後の残葉でのハダニの密度に注意し、密度が高まる前に早めに防除を実施する。

●クワシロカイガラムシ

予報の根拠

- ・4月中下旬の巡回調査では、平均寄生株率は5.2%（平年4.2%）と平年よりやや多かった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並であり、気温は平年より高いため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・4月23日現在におけるアメダス気温データを用いた予想では、牧之原市（菊川市：茶業研究センター）の第1世代幼虫の予想ふ化最盛日は、5月9日（昨年5月15日、平年5月15日）と昨年や平年に比べて6日早いと予想される。
- ・第1世代は、第2世代以降に比べて幼虫ふ化時期が揃うため防除効果が高い。発生が見られる茶園では幼虫のふ化状況を観察し防除を行う。なお、各地の予想ふ化最盛日と防除適期の目安は、病害虫防除所ホームページ「[防除時期等予測](#)」で提供している。

<その他の病害虫>

●チャノサビダニ・チャノナガサビダニ

- ・一番茶摘採残葉や摘採が遅くなった一番茶葉に多発することがある。
- ・雨が少なく乾燥条件が続くと、急激に密度が増加する。多発すると、二番茶芽の生育が抑制されることがあるため、発生が見られたら早めに防除する。

●チャノホソガ

- ・新芽生育期と成虫発生期が合致すると発生が多くなる。地域の予察灯やフェロモントラップにおける誘殺虫数の推移や新芽への産卵状況に注意し、適期防除を実施する。なお、成虫の誘殺データについては病害虫防除所ホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」で情報提供している。

●炭疽病

- ・3月上中旬の巡回調査では、古葉における平均発病葉数が5.8葉/1.25m²（平年19.3葉/1.25 m²）と平年よりも少なかった。よって伝染源密度も低いと推測される。
- ・感染は新芽の上位3～5枚目くらいまでの新葉に限られる。また、感染には10時間以上の濡れが必要で、新芽の生育期に降雨が続くと発生が多くなる。このため、天候に注意し、二番茶芽の開葉期に防除を実施する。

●もち病

- ・昨年10月の巡回調査では、発病は認められなかった（平年発病葉率3.7葉/1.25m²）。よって伝染源密度も低いと推測される。

- ・伝染源となる担子胞子の発芽には高い湿度（99%以上）が必要で、発芽と菌の生育適温は16～20℃である。多発すると浸透移行性のある殺菌剤でも十分な防除効果が得られなくなるので、茶園をよく観察し、発生初期に防除を徹底する。例年発生がみられる茶園では、二番茶の萌芽～開葉期に予防散布を実施する。なお、耐性菌の発生を防ぐため、DMI 剤の連用は避け、保護殺菌剤と組み合わせて防除する。

●褐色円星病（緑斑症）

- ・4月中下旬の巡回調査では、平均発病葉率22.4%（平年46.3%）と平年よりも少なかった。多発園では新芽の下の古葉が落葉し、樹勢が低下することから、減収や品質の低下を招く。
- ・一番茶期には防除手段がなく、薬剤による防除適期は三番茶または秋芽生育期である。そのため、発生状況が最もわかりやすいこの時期に発生茶園を確認しておき、適期になったら防除する。

【きく（施設）】

<その他の病害虫>

●黒斑病・褐斑病

- ・多湿で発生が助長されるため、施設内環境に注意する。また、病原菌の生育適温は黒斑病24～28℃、褐斑病20～28℃である。
- ・本病は潜伏期間が長く、発病後の防除では手遅れとなるので、薬剤の予防散布を行う。
- ・発病葉は感染源となるため速やかに摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。
- ・親株が罹病しているとそこから新芽に伝染し、定植してから発病することが多いため、発病が見られる株を親株として用いない。

3 季節予報

● 1か月予報（東海地方 令和8年4月23日 名古屋地方気象台発表）

【予報期間】 4月25日から5月24日

【予想される向こう1か月の天候】

| | | |
|--------|------|------------------------------------|
| 向こう1か月 | 天候 | 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 |
| | 気温 | 平均気温は、高い確率50%です。 |
| | 日照時間 | 日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。 |
| 1週目 | 気温 | 1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。 |
| 2週目 | 気温 | 2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。 |
| 3～4週目 | 気温 | 3～4週目は、高い確率60%です。 |

【確率】

| 期間 | 要素 | 低・少 | 平年並 | 高・多% |
|-------|------|-----|-----|------|
| 1か月 | 気温 | 10 | 40 | 50 |
| 1か月 | 降水量 | 30 | 30 | 40 |
| 1か月 | 日照時間 | 40 | 40 | 20 |
| 1週目 | 気温 | 20 | 40 | 40 |
| 2週目 | 気温 | 20 | 40 | 40 |
| 3～4週目 | 気温 | 10 | 30 | 60 |

【予報の対象期間】

| | | | |
|-------|---|-----------|----------|
| 1か月 | : | 4月25日（土）～ | 5月24日（日） |
| 1週目 | : | 4月25日（土）～ | 5月1日（金） |
| 2週目 | : | 5月2日（土）～ | 5月8日（金） |
| 3～4週目 | : | 5月9日（土）～ | 5月22日（金） |

※ 利用上の注意

- ・気温・降水量は「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1991～2020年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります。（気候的出現率と呼びます）。
- ・晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

お問い合わせは

静岡県病害虫防除所 〒438-0803 磐田市富丘678-1

TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

URL

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>